



今後の進め方



本町の公共交通が「めざすべき姿」の実現に向け、計画期間において、本計画に基づく取り組みを進めていきます。また、めざすべき姿が実現できているかどうかを確認するための指標と目標値を設け、評価・検証を行います。

《達成状況の検証》

計画を進めるに当たっては、PDCA（Plan・Do・Check・Action）のサイクルによる継続的な取り組みを行い、必要に応じて適宜改善を図っていきます。取り組みの実施状況、目標の達成状況については、各年度及び最終年度に確認・検証し九十九里町地域公共交通会議で報告します。また今後、本町の公共交通を取りまく地域や社会の情勢、交通手段に関する技術革新の動向、人々の意識・行動や嗜好・流行の変化等によっては、計画内容の更新、見直し等を行うことも必要となります。



（取り組みの進め方）

	R 6年度				R 7年度				R 8年度				R 9年度				R 10年度			
	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
Plan	次年度の計画・調整				次年度の計画・調整				次年度の計画・調整				次年度の計画・調整				次年度の計画・調整			
Do	取り組みの実行				取り組みの実行				取り組みの実行				取り組みの実行				取り組みの実行			
Check	前年度の確認				前年度の確認				前年度の確認				前年度の確認				前年度の確認 全体の評価・検証			
Action	更新・見直し等				更新・見直し等				更新・見直し等				更新・見直し等				更新・見直し等			

* 前年度の取り組み状況の確認、全体の評価・検証の結果は、九十九里町地域公共交通会議で報告。

《評価指標と目標値》

本計画が「めざすべき姿」の実現に向けた「5つの方向性」に対し、達成状況を測るための“ものさし（目安）”として評価指標と目標値を以下のように設定します。なお現況値については、令和5年度の基礎調査期間に入手可能な情報をもとに設定しました。新型コロナウイルス感染拡大後の外出行動の状況など、計画期間中に大きな変化があった場合には目標値の見直しを行います。

方向性 1

町の公共交通を将来にわたり持続します。
(バス・タクシー)

●達成イメージ： 本町のバスが持続的に運行している。

公共交通が持続的に運行し、人口減少が進展する状況においても現在と同等以上の利用客数を確保していることを指標とします。

・指標① バスの運行に対する町の補助額

現況値（令和 5 年度）	目標値（令和 10 年度）
2,568 千円／年	2,568 千円／年（現状確保）

・バスの運行に対する町による補助額の合計。

・指標② 九十九里町を運行するバスの利用客数計

現況値（令和 4 年度）	目標値（令和 10 年度）
217 千人／年	217 千人／年（現状確保）

・本町を運行する九十九里鐵道（片貝・豊海循環線、片貝線、豊海線、九十九里ライナー）、ちばフラワーバス（海岸線）、小湊鐵道（高速バス IC カード）の利用客数の合計。

●達成イメージ： 路線バスが、効率的に運行・運営できている。

定期的な見直し等によって運行・運営が効率的になり、運行 1 回当たりの利用客数が増加していることを指標とします。（このことに伴い、収支率も、1 人当たりの費用も良くなります。）

・指標③ 九十九里鐵道の路線バスの運行 1 回当たりの乗車人員

現況値（令和 4 年度）	目標値（令和 10 年度）
5.6 人／便	6.0 人／便（現状以上）

・九十九里鐵道のバス（片貝・豊海循環線、片貝線、豊海線）の年間運行回数の合計に対する延べ利用客数の実績。

方向性 2

地域の実情に応じた外出手段を確保し、
日々のお出かけを便利にする調整・工夫をします。

●達成イメージ：公共交通を利用した外出が増えている。

町民等が日々の外出で公共交通を便利に使えるようになり、多くの人がバスを利用して外出していることを指標とします。

・指標④ 九十九里町を運行するバスの利用客数計（再掲）

●達成イメージ：公共交通がうまく使われている。

町民等が日々の外出で、タクシーをうまく利用していることを指標とします。

・指標⑤ 町内のタクシーの年間利用客数

現況値（令和4年度）	目標値（令和10年度）
10,568 人／年	10,600 人／年（現状以上）

・町内のタクシーの年間利用客数。

・指標⑥ タクシー助成券利用時の平均乗車人数

現況値（令和4年度）	目標値（令和10年度）
1.25 人	1.30 人（現状以上）

・タクシー助成券の実績。

●達成イメージ：地域に見合った外出手段の確保に取り組んでいる。

本町の実情に見合った外出手段（乗合の公共交通の利用が難しい高齢者や障がいのある方などへの外出支援サービス）に継続的に取り組んでいることを指標とします。

・指標⑦ 町が行う外出支援サービスの件数

現況値（令和4年度）	目標値（令和10年度）
—	1 件／年

・町が行う乗合の公共交通の利用が難しい高齢者や障がいのある方などへの外出支援サービスの件数。

・「九十九里町総合計画」の指標と整合

方向性 3

使ってみたくなる利用環境をつくります。
(わかりやすさ・やさしさ)

●達成イメージ： 公共交通のことを知っている町民、使って満足している町民が増えている。

公共交通全体のわかりやすさ・やさしさが充実し、町内の公共交通に対する町民の認知度、満足度が向上していることを指標とします。

・指標⑧ 町内のバスの認知度（知っている町民の割合）

現況値（令和5年度）	目標値（令和10年度）
24%	50%以上

・町民アンケート結果（R5）による（町全体の路線・行き先等を）“おおむね知っている”との回答の割合

・指標⑨ 町内の公共交通に対する全体的な満足度

現況値（令和5年度）	目標値（令和10年度）
7%	20%以上

・町民アンケート結果（R5）による「満足」「やや満足」との回答の計
（満足、やや満足以外の回答には、“わからない”との回答も含まれている）

方向性 4

クルマだけでなく、使える時には少しずつでも公共交通
を考えるように、意識の変容を促していきます。

●達成イメージ： 公共交通への意識の醸成を主旨とする取り組みが着実に行われている。

町民に対しクルマしか使わない外出スタイルの見直し、公共交通への意識の醸成を促す取り組みが着実に行われていることを指標とします。

・指標⑩ 町民の意識の醸成を主旨とする広報、会合等の回数

現況値（令和4年度）	目標値（令和10年度まで）
—	2回／年

・意識の醸成を主旨とする町民への広報、会合等の町による実施回数
・「九十九里町総合計画」の指標と整合

●達成イメージ： 使える時に公共交通を使う外出スタイルが徐々に広がっている。

意識の醸成を促す取り組みにより、公共交通を使わない町民が減少していることを指標とします。

・指標⑪ 町内のバス・タクシーに乗らない町民の割合

現況値（令和5年度）	目標値（令和10年度）
67%	50%以下

・町民アンケート結果（R5）による（町内のいずれのバス、タクシーにも）「乗ったことがない」または「ほとんど乗らない」との回答の割合

方向性5 九十九里のまちの賑わいに貢献する方策を模索します。

●達成イメージ： まちの賑わいに貢献する公共交通の取り組みが着実に行われている。

観光と公共交通が連携した取り組みが着実に行われていることを指標とします。

・指標⑫ 公共交通が連携したバスの運行、集客や周遊・回遊の企画への取り組みの件数

現況値（令和4年度）	目標値（令和10年度）
—	1件／年

・公共交通が連携したバスの運行、イベント・キャンペーン・企画等の件数

《進捗管理》

計画全体の取り組みの進捗確認や結果の評価・検証を行う主体が必要であり、「九十九里町地域公共交通会議」において行います。

《今後の取り組みのスケジュール》

取り組みごとの具体的な実施体制等について調整・決定し、令和 6 年度(2024 年度)以降の 5 年間で、具体的な実施内容や方法の検討、準備等を行いながら取り組みを進めます。必要に応じて試行、実証運行をふまえながら取り組み、状況によっては計画の見直しも適宜行っています。取り組みの進捗状況や、指標とした数値の経過を把握可能なものについて毎年確認を行い、最終的な目標の達成状況を令和 10 年度(2028 年度)に検証します。

取り組み		計画期間				
		2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
1. 町の公共交通（バス・タクシー）を将来にわたり持続します。						
1-1	路線バス・高速バスの利用促進と持続的な運行	継続、順次見直し				
1-2	日常的な利用客（固定客）の確保	継続、検討、PR活動				
1-3	効率的・安定的な運用のための方策の検討・実施	継続、検討	試行等			
2. 地域の実情に応じた外出手段を確保し、日々のお出かけを便利にする調整・工夫をします。						
2-1	町民の外出手段の効率的な確保	継続、検討	試行・実証運行等			
2-2	町民の外出の利便性向上のための運用・運用方法の工夫	継続、検討、試行等				
2-3	学生等の利便性向上のための方策	継続、検討				
2-4	福祉と連携した外出等の支援	継続、検討				
3. 使ってみたくなる利用環境をつくります。（わかりやすさ・やさしさ）						
3-1	町の公共交通全体のわかりやすさの充実	検討、順次実施				
3-2	乗り場での案内（現地でのわかりやすさ）の充実	検討、順次実施				
3-3	主要な乗り場での待合環境の充実	検討、試行等				
3-4	人にも地球にもやさしい利用環境の充実	検討、順次実施				
4. クルマだけでなく、使える時には少しずつでも公共交通を考えるように、意識の変容を促していきます。						
4-1	町民への広報PR	検討、継続的に実施				
4-2	免許返納を考える人へのサポート	検討、継続的に実施				
4-3	町民が乗る機会・考える機会の提供 （モビリティ・マネジメントの取り組み）	検討、継続的に実施				
4-4	地域主体で考える機会のサポート	検討、継続的に実施				
5. まちの賑わいに貢献する方策を模索します。						
5-1	観光等に便利な運行方法の工夫・試行	検討、実証運行等				
5-2	観光と公共交通が連携した企画等	継続、検討、試行等				
5-3	その他、来訪者の利便性の充実	情報収集、検討、順次実施				

（取り組みの検証）

- 実施状況、把握可能な指標を、毎年チェック
- 最終年度に、すべての取り組み、全目標値の達成状況を検証

